

ようせいさんにあえるかなあ？

百花幼稚園長 金田 悟司

7月5日金曜日、幼稚園に登園した星組さんが、階段の壁や各クラスのドアに見つけたものは、小さな、小さな泥の跡。

もちろん先生たちの意図は、子どもたちが「ようせいさんの足跡かなあ？」と推理を働かせてくれることを期待。

「なに、これ？」

「ほし1くみにもある、ほし3にもある」

「ようせいさん、おへやにあそびにきたのかなあ？」

「どろのあしあとだから、おにのあかちゃんじゃないの？」

「ちがうよ、おにが、くるのは、もっとあとだよ」

「おにと、ようせいとはもだちなの？」

「じゃ、ようせいさんにも、つのがあるの？」

などなど、子どもたちの想像は膨らんでいきます。

過去の自分たちが体験したことを、しっかり覚えていて、それを今の目の前の不思議な出来事に繋げて、自分なりに答えを求めています。

言葉を変えれば、学習しているんですね。

ベルの音が幼稚園に響くたびに、ようせいの木に吸い寄せられるように集まる星組さん。

今年は、アジサイの葉っぱに泥を塗りつけ、そこにアジサイの花びらを飾るというプレゼント・クローバーがさされた泥だんごをあじさいの葉っぱに包んだもの、つるで縫われた袋状のプレゼントを作り、妖精の木に飾ったりしています。

先日は「園長先生、妖精の木の下にハチの巣ができています」と先生が報告してきたので、森に見に行くと、どろだんごが枝に刺してあり、泥が乾いて、確かに一見ハチの巣に見えて、大笑いもしました。

これからも、妖精さんからの手紙を届けながら、子どもたちの想像力を大いに刺激していきます。どんな表現が飛び出してくるのか、とっても楽しみです。

お父さん、お母さんから離れて過ごす寂しさはあるけれど「ようせいさんにあえるかなあ」の期待感でお泊り保育に参加してくれることを期待しています。

